

ロータリー財団

The Rotary Foundation



国際ロータリー日本事務局内
公益財団法人ロータリー日本財団

〒108-0073

東京都港区三田1丁目4-28 三田国際ビル24階
(TEL) 03-5439-5805 (FAX) 03-5439-0405
(Email) RotaryFoundation.Japan@rotary.org



アーチ・クランフ



ロータリー財団創設に貢献したアーチ・クランフと理事達
「ロータリーの友」より

ロータリー財団の父 アーチ・クランフ

ロータリー財団の父と呼ばれるのは6人目のRI会長、アーチ・クランフである。「ロータリーが基金をつくり、全世界的な規模で慈善、教育、その他社会奉仕の分野で、何かよいことをしようではないか」と1917年アトランタ国際大会で提案した。数カ月後に、この新しく誕生した基金に米貨26ドル50セントの最初の寄付金が寄せられた。この基金がやがてロータリー財団に発展していく、その過程の出来事である。

アーチ・クランフは、貧しい少年時代を経て、米国オハイオ州クリーブランドで実業家として成功した立志伝中の人物である。また、アーチ・クランフは、フルート奏者（14年間クリーブランド交響楽団の団員であった）やスポーツマンとしても活躍した。アーチ・クランフは、国際ロータリーの新定款を起草する委員会の委員長として、地区制度や地区ガバナー職をつくり、年次地区大会を確立した。また、アーチ・クランフは全ロータリークラブのために標準ロータリークラブ定款と細則を書き上げ、それは1915年に採択された。ロータリー草創期においてロータリー発展の基礎を築いたこともアーチ・クランフの業績である。

1912年から1913年にかけて、アーチ・クランフは、クリーブランドRC会長を務めた。友人達はアーチ・クランフを次のように評していた。「寝てもさめてもロータリー夢を見るのもロータリー」の人間であると。当時ですら、アーチ・クランフは、いつも将来に目を向け、ロータリーがよい仕事を続ける方法を模索していた。アーチ・クランフがロータリーにかける夢の一つを初めて吐露したのはクリーブランドRCの会長のときだった。クラブ会長としてのスピーチで、今後、クラブが多くなることができるように「非常時基金」を作ることを提案した。「非常時基金」の提案は、4年後のアトランタ国際大会で、「ロータリーが基金をつくり、何かよいことをしようではないか」という形で再登場する。各地のロータリアンが目先の世界の出来事に目を奪われている第1次世界大戦中にアーチ・クランフの夢が提起されたということは、アーチ・クランフの理想の素晴らしさの証と言えるだろう。

第1次世界大戦のさなかにロータリー財団の原形が誕生したのである。

アーチ・クランフは次のように述べた。「われわれはこの財団を今日明日の時点ではなく、何年、何世代の尺度で見つめるべきである。なぜなら、ロータリーは幾世紀にもわたる運動だからである。」

アーチ・クランフは、ロータリーを不滅にする手段として基金を構想した。「ロータリー財団は、レンガや石の記念碑を建てるものではない。たとえ、大理石に文字を刻んだとしても、やがては崩れてしまうだろう。真鍮を使ったとしても、いつかは汚れてしまうだろう。だが、心の中にその精神を刻むなら、そして、ロータリー

精神と、神をおそれ同胞を愛する気持ちを吹き込むならば、われわれが刻んだものは永遠に輝き続け、文明の続く限り、ロータリーを不滅のものとするだろう。」

1930年代には、大恐慌が世界中で影響を及ぼし始めた。そのとき、財団は、最初の補助金を授与したのである。

ロータリー財団とは



ロータリー財団の正式名称は、国際ロータリーのロータリー財団である。国際ロータリーとロータリー財団に違いがあるだろうか。ロータリーの奉仕の理念を信奉する点では国際ロータリーもロータリー財団も一体のものである。「ロータリークラブは、場所を問わず一つの基本的理念をもっている。それは奉仕の理念で、他の人々を思いやり、他の人々の役に立つことである」と書かれている。

『奉仕の理念は人々をつなぐ真の絆である。奉仕とは、単によいことをするだけでなく、人々の役に立つことだ。世界では人々が異なる言語を話し、異なる食事をし、異なる衣服を着て、異なる宗教を信奉している。こうした人々を結び付けるには、強力な絆が必要だ。ロータリーでは、その絆が超我の奉仕と言う理念なのである』

1987-88年度 国際ロータリー会長 チャールズ・ケラー 氏の言葉より

財団の発展

1947年1月27日に、ポール・ハリスがイリノイ州シカゴの自宅で亡くなった。70カ国以上30万人以上のロータリアンがロータリーの創始者の死を悼んだ。しかし、ポール・ハリスの死は、財団の転換点になった。ポールの逝去で、寄付が国際ロータリーに相次いで寄せられた。財団は、ポール・ハリス記念基金を設け、ポールに敬意を表したいロータリアンに対して、財団寄付をお願いした。その反響は素晴らしいものだった。翌年の7月までに、米貨130万ドル以上が寄付された。



1947年には最初の財団プログラムが実現された。それは、高等研究奨学金と呼ばれるもので、これが最初のプログラムで後にロータリー国際親善奨学金、未来の夢計画の奨学金へと発展し続けていく。

財団の発展は、プログラムを開発したときに始まった。

世界中のロータリアンの心をとらえたプログラムだったのだ。どのプログラムもロータリーの理念をかかげ、はぐくむものばかりだ。

さらに、1957年に、ロータリー財団は、財団の活動に寄付した人々への感謝を示す手段として、ポール・ハリス・フェローの認証を開始した。自ら、または第三者の名義で財団に米貨1,000ドル（または相当額）を寄付すると、ポール・ハリス・フェローとして認証される。2013年6月30日現在、ポール・ハリス・フェローの数は世界で140万人以上に達している。

ロータリー 75周年に先んじて、保健、飢餓追放および人間性尊重プログラム（Health, Hunger and Humanity Program — 3-H）開発のための75周年記念基金（1979-80）を設けることを決定した。3-Hプログラムの目的は国際間の理解、親善および平和を促進するための方法として、人々の健康状態を改善し、飢餓を救済し、人間的社会的向上発展を図ることである。

ロータリーは、個人奉仕から一步踏み出して、新しい道を歩み出した。この3-Hプログラムから、ポリオプラスプログラムやロータリーボランティア・プログラムが生まれた。

1985年にロータリー 100周年の2005年までにポリオの撲滅を目指し、ポリオプラスプログラムをスタートさせた。何度かのキャンペーンを経て、2014年1月にはポリオ常在国3カ国までに減少し、2018年までにポリオフリーとなることを目指している。

さらに2002年には、世界7カ所8大学をパートナー大学に指定し、世界平和奨学金（現在のロータリー平和フェローシップ）を発足させた。

世界のニーズに対応するために、ロータリー財団の奉仕活動が大幅に増え続けている中、手続きの簡素化と同時に奉仕の大きいなる成果が望まれるようになった。

財団のプログラムは、ロータリアンの要望に応え、変わりゆく世界のニーズに対応すべく2008年6月の理事会で、ロータリー財団の未来の夢計画を承認した。

2010年7月1日から2013年6月30日まで、世界100地区（パイロット地区と呼ばれた）で未来の夢計画がスタートし、2013年7月1日より、世界中で未来の夢計画を展開することになった（global launch）



ロータリー財団補助金について



未来の夢計画の下での新たな補助金制度では、地区補助金により、地区に大幅な権限を委譲し、同時に、グローバル補助金で、大規模なプロジェクトを実施できるようになり、併せて他団体（戦略パートナー）と協力して、パッケージ・グラントに取り組む。

ロータリー財団の標語、使命、六つの重点分野

ロータリー財団の標語 世界でよいことをしよう

ロータリー財団の使命 ロータリアンが、人々の健康状態を改善し、教育への支援を高め、貧困を救済することを通じて、世界理解、親善、平和を達成できるようにすること。

六つの重点分野（補助金申請の際は訳語でなく英語に基づくこと）

Peace and Conflict Prevention/Resolution（平和と紛争予防／解決）

Water and Sanitation（水と衛生設備）

Disease Prevention and Treatment（疾病予防と治療）

Maternal and Child Health（母子の保健）

Basic Education and Literacy（基礎教育と識字率向上）

Economic and Community Development（経済開発と地域開発）

補助金の構成

補助金は次の3種類である。

地区補助金

グローバル補助金

パッケージ・グラント

それぞれの補助金の下に、奨学金、職業研修チーム（VTT：Vocational Training Team）、人道的プロジェクトの三つのプログラムがある。

奨学金は国際という言葉が削除されたように国内でも使える。

職業研修チームは、従来のGSE（研究グループ交換）と比べて、必ずしも交換である必要はなく、職業研修のみに重点を置く。奨学金と職業研修チームが教育的プ

プロジェクトであるのに対して、さらに人道的プロジェクトが設けられている。従来のマッチング・グラントと似ているが、グローバル補助金の人道的プロジェクトにはマッチング（地区やクラブの拠出額にロータリー財団が、金額に見合った補助金を授与すること）があるが、地区補助金とパッケージ・グラントにおける人道的プロジェクトにはマッチングはない。

地区補助金

DDFの50%以内を地区補助金に割り振ることができる。地区の裁量で、人道的、教育的にかかわりなく社会奉仕プロジェクトと国際奉仕プロジェクトを実施できる。地区が財団に一括申請し、クラブは地区に申請する。

グローバル補助金

DDFの50%以上をグローバル補助金に割り振ることができる。プロジェクトは六つの重点分野に限られ、地区またはクラブが個々に財団に申請し、承認されてからプロジェクトを実施する。現金寄付とDDFに対してWFをマッチング（組み合わせ）する。

パッケージ・グラント

ロータリー財団の承認の下、戦略パートナーの提案するプロジェクトに参加する。世界での年間補助金件数には上限がある。地区はDDFを寄贈できるが、原則として、クラブと地区の財政負担はない。

地区補助金

1. 地区補助金概要

DDFのみが財源で、財団からのWFによるマッチングはない。

3年前の年次寄付と恒久基金利息によるDDF合計の50%以下を地区補助金として申請できる。日本の地区は、毎年、DDFの繰り越しがあるが、繰り越しについては地区補助金の対象にならない。

地区が一括して申請し、一括して地区補助金を受け取る。地区によっては、その裁量で、クラブがある程度の資金を用意し、不足分を補うものとして地区補助金をクラブに授与している。

一括して受け取った地区補助金は、地区が資金管理をする。

最終報告を提出しないと、次の地区補助金を申請できないので、比較的短期間のプロジェクト。最終報告はプロジェクトを完了しなくても提出できる。

補助金を受け取ってから24カ月以内に完了しなければならない。

1 回限りの比較的小規模のプロジェクト。

奨学金の場合、2年を超えてはならない。

奨学金の場合、高校、大学、大学院いずれでも可。

学校の所在地は、国内、海外を問わない。

1 件当たりのクラブプロジェクトまたは地区プロジェクトへの補助金額は比較的少額で、ミニマムの規定はない。

国内の事業にも、国際レベルの事業にも利用できる。

ロータリークラブのない国での奉仕事業にも利用できる。

プロジェクトの分野は問わない。地区の裁量で実行できる。

地区が一括して受け取った補助金をクラブに授与して、なお残金があり、ロータリー財団に返却した場合、DDFとして戻るが、地区補助金には使えない。繰り越されたDDFと同じく、グローバル補助金や寄贈（ポリオプラス、ロータリー平和センター）に使うことになる。だから、地区の利用できるDDF (available DDF) の中で、地区補助金とグローバル補助金の配分比率は、現実には50%対50%にならない。

海外の大学で教鞭を執る、難民の歯の治療をするなどのボランティアには旅費を支給できる。

2. 地区補助金の申請

奉 仕 事 業

M E M O

- 奨学金、職業研修チーム、人道的プロジェクトのいずれにも使える。
- 1プロジェクト当たりの地区補助金額に上限も下限もない。
- 地元社会でも海外でも事業を実施できる。
- 建物、施設の改築事業も可。但し病院と学校の増築を除く。

事 業 例

- 文化・芸術分野に関する奨学金
(海外留学でも地元の大学に行く場合でも可)
- 経済的に困っている学生への学費の支援
- 使い道を厳密に指定すれば、現金を贈ることもできないことはないが、あまり望ましくない。

- 職業研修チームの派遣
(期間・人数ともに自由)
- 職業訓練の支援
- 海外のクラブとの協力事業 (災害救援も含む)
- 地元地域社会での奉仕事業 (災害救援も含む)
- ロータリークラブのない国での奉仕事業
- 公園や駅前の美化活動



3. 地区補助金の全般的基準と条件

基準

すべての地区補助金は、ロータリー財団の使命を守ること。
ロータリアンが汗を流すこと。

条件

それぞれの補助金を律する条件を守ること。
ロータリー財団または国際ロータリーに補助金授与以外の責任を負わせないこと。
米国および実施国の法令を守り、個人または団体を傷つけないこと。
承認された活動だけに資金を使うこと。既に完了または開始したプロジェクトには補助金を授与しないこと。
補助金参加者について定められているConflict of Interest (利害の衝突) の方針に従うこと。
ロータリーマークを所定の方針に基づき使用すること。

4. 地区補助金で資金を調達できること

人道的プロジェクト。
地区が承認した海外旅行の費用と奉仕プロジェクト。
職業研修、交換、チームの費用。
奨学金。
他国で教鞭を執る教育者への補助金。
地元と海外でのプロジェクトと活動。
ロータリークラブのある国およびない国のプロジェクトとその市民を支援する活動。
インフラ (社会基盤) の建設は、次のものに限られる。
トイレ、上下水道、側溝、ダム、橋、貯蔵設備、フェンスやセキュリティシステム、水、灌漑システム、温室。
既存建物の改築、修理。



電気、水道、暖房などを建物内に取り入れること。屋根の修理。
エレベーター、浴室の改装など。

5. 地区補助金を次のものに使うことはできない。

人種、性別、言語、宗教、年齢を理由とした差別的なこと。

政治、宗教に関わること。

教会などの純粋に宗教的な行事の支援。

妊娠中絶、性別決定などに関する活動の支援。

インターアクト、ローターアクト、ロータリー友情交換、RYLA、青少年交換などの国際ロータリープログラムの支援（プログラムの重複は不可）。

武器の購入。

6. 報告書、実施期間、残金

補助金支給後の12カ月以内、または補助金を全額支出してから2カ月以内に最終報告を提出する。

（仮に、2年間の奨学金を授与した場合、補助金を全額支出した段階で2カ月以内に報告書を提出することになる。）

補助金を全額支出した段階で（プロジェクトが完了していなくても）、closed（最終報告を提出して、ロータリー財団が終了と認めること、receivedや acceptedではありません）にできる。

プロジェクトと活動は24カ月以内に完了しなければならない。

従って奨学金であれば2年までとなる。

補助金に残金があれば、クラブは地区に返金する。

地区は、地区補助金の残額をロータリー財団に返却する。これはDDFとして地区に戻る。

残額が少額の場合は、ロータリー財団の許容範囲の活動に支出できる。

グローバル補助金

重点分野のいずれかに該当するプロジェクトでなければならない。

Peace and Conflict Prevention/Resolution（平和と紛争予防／解決）

Water and Sanitation（水と衛生設備）

Disease Prevention and Treatment（疾病予防と治療）

Maternal and Child Health（母子の保健）

Basic Education and Literacy（基礎教育と識字率向上）
Economic and Community Development（経済開発と地域開発）

DDFと現金に対してWFを組み合わせ、その合計が財源となる。
組み合わせ率—DDFなら1対1、現金なら1対0.5でWFが組み合わせられる。
プロジェクト1件ごとに申請書を提出する。

長期にわたるプロジェクト。（例外—職業研修チーム）

持続性のある成果を上げ、かつ、その成果を測ることができなければならない。
（人道的プロジェクトとVTTの場合、モニタリングと評価の計画を提出）。

比較的大規模なプロジェクト。

奨学金の場合、1年から4年まで。

奨学金の場合、重点分野で海外の大学院で学ぶ場合のみ。

1件当たりの補助金額は、ミニマム15,000ドル。上限は20万ドル。

事業総額としては30,000ドルから40万ドル（DDFの場合のみ）

30,000ドルから60万ドル（現金の場合のみ）

現金とDDFの組み合わせも可。

2カ国以上のクラブまたは地区が参加する。国際規模のプロジェクトのみ。

ロータリークラブが存在する国および地域のプロジェクトのみを支援する。

Host Sponsor（プロジェクト実施地のクラブまたは地区）と、International Sponsor（海外の援助提供クラブまたは地区）の両者が必要である。

同時に10件まで申請できる。（地区の場合は、地区補助金を含めて10件。）

個別のプロジェクトの補助金を受け取った後、プロジェクトに残金があり、ロータリー財団に返却した場合、WFに組み入れられる。

ロータリー財団がプロジェクトを1件1件審査し、補助金を授与する。

プロジェクトに参加するロータリアンの旅費は支給されない。

（ただし、職業研修チームのチームリーダーを除く）

1. グローバル補助金の申請

奉 仕 事 業

M E M O

- 補助金の下限\$15,000～上限\$200,000。
- \$100,000以上の補助金は管理委員会の承認が必要となる。
- 現金やDDFの提唱者寄付にWFがマッチングされる。
現金に対しては1/2、DDFに対しては同額がマッチングされる。
- ロータリーのある国でのみ事業実施可。

- 改築・増築も可。病院と学校の増築は不可。
- プロジェクトの予算規模は、3万ドル以上。

事業例

- 6種類の重点分野を専攻する奨学金。
1年から4年間。奨学金額3万ドル以上。
財団が奨学生を承認。
- 6種類の重点分野に関する職業研修チームの派遣。
メンバー2名以上とリーダーで上限なし。
期間自由。事業額3万ドル以上。
- 6種類の重点分野に関する大規模な人道的プロジェクト。
外国のクラブや地区と協同で実施する。
協同提唱者は、実施国側、援助国側で、それぞれいくつあっても良いが、primaryはそれぞれの国に一つである。

必須条件 グローバル補助金は次の6種類の重点分野に活用する

Peace and Conflict Prevention/Resolution（平和と紛争予防／解決）

Water and Sanitation（水と衛生設備）

Disease Prevention and Treatment（疾病予防と治療）

Maternal and Child Health（母子の保健）

Basic Education and Literacy（基礎教育と識字率向上）

Economic and Community Development（経済開発と地域開発）

グローバル補助金の条件

それぞれの補助金を律する条件を守ること。

ロータリー財団または国際ロータリーに補助金授与以外の責任を負わせないこと。

米国および実施国の法令を守り、個人または団体を傷つけないこと。

承認された活動だけに資金を使うこと。既に完了または開始したプロジェクトには補助金は授与されない。

補助金参加者について定められているConflict of Interest（利害の対立）の方針に従うこと。

Conflict of Interest — ロータリアンやロータリー職員の親族が奨学生や職業研修チームメンバーになれないこと。またロータリアンが地区補助金やグローバル補助金の受益者になれないこと。2013年規定審議会、次いでロータリー財団管理委員会決定により、自然災害の被災者にはConflict of Interestは適用されない。

ロータリーマークを所定の基準に従って使用すること。ビジュアルアイデンティティー（視覚的イメージ）の規定参照のこと。

2. グローバル補助金を次のものに使うことはできない

人種、性別、言語、宗教、年齢を理由とした差別的なこと。

政治、宗教に関わること。

教会などの純粋に宗教的な行事の支援。

妊娠中絶、性別決定などに関する活動の支援。

インターアクト、ローターアクト、ロータリー友情交換、RYLA、青少年交換などの国際ロータリープログラムの支援（プログラムの重複は認められない）。

武器の購入。

3. グローバル補助金において考慮されること

申請手続きは、オンラインで行う。

重点分野とそれに準じた目標を中心としたプロジェクトのアイディアかどうか。

この補助金が受益者となる地域社会にどのような影響を与えるか。受益者の人数はどのくらいか。（モニタリングと評価の計画）

補助金の効果や成果が持続するかどうか。

プロジェクト実施地と海外の援助提供パートナーの汗を流す活動が含まれているかどうか。

ロータリアン以外の人に参加しているかどうか。

協力団体が補助金に参加するか、または参加予定か。

奨学金申請書は早めに提出する。

職業研修チームの申請では、リーダーと詳細な日程の記述。

予算作成は、詳細、具体的、合理的、信頼に足るものであること。

4. グローバル補助金の報告書、残金の扱い

プロジェクト完了後2カ月以内に提出する。

長期にわたる場合、1年ごとに中間報告を出す。

補助金の残額は、ロータリー財団に返却する。これはWFに組み入れられる。残額が、財団から受け取ったWF以上であれば、その額は地区に戻る。

5. グローバル補助金の人道的プロジェクト

- 一つまたは二つ以上の重点分野において、恵まれない人々の最低限のニーズに応えると同時に、全体の幸せを高めるようなプロジェクトでなければならない。

- プロジェクトの実施地のロータリークラブまたは地区が手がけたプロジェクトでなければならない。
他団体が手がけた事業に協賛するようなプロジェクトは適格ではない。
- インフラ（社会基盤）の建設は、次のものに限られる。
トイレ、上下水道、側道、ダム、橋、貯蔵設備、フェンスやセキュリティシステム、水、灌漑システム、温室。可
- 既存建物の改築、修理。電気、水道、暖房などを建物内に取り入れること。屋根の修理。エレベーター、浴室の改装など可。
学校と病院の増築は認められなくなった。
- 受益者の旅費に限り、海外への渡航費用は可。
- 国内旅行については、プロジェクトの実施に携わるロータリアンとロータリアンでない人、受益者の旅費は可
- プロジェクト実施にかかわるプログラム費用、給与、給付金、謝礼。可
- 人道的プロジェクトの場合、補助金の額によって次の三つに分けられる。
レベル1：US \$ 15,000 — US \$ 50,000 現地訪問の定めは特にはない。
レベル2：US \$ 50,001 — US \$ 100,000 必要に応じて、現地訪問が必要。
レベル3：US \$ 100,001 — US \$ 200,000 事前の現地訪問が必須。

6. グローバル補助金の奨学金

- 専攻分野は、ロータリー財団の重点分野でなければならない。
- 奨学生は、教育レベルの条件を満たしている限り、年齢を問わない。
- 奨学金の期間は、大学院またはそれに相当するレベルの1年から4学年度である。
- 教育機関と学業プログラムは、ロータリー財団の承認を受けなければならない。
- 奨学金には、授業料、旅費、生活費、保険料、その他ロータリー財団承認の他の教育関連の費用が含まれる。
- 教育機関の所在地となる地区がホストを務める。
- ホストクラブまたは地区がホストカウンセラーを任命する。
- 奨学生がロータリー財団の書面による承認なしに補助金を打ち切った場合、派遣側のクラブまたは地区が奨学金返還に助力するものと期待されている。
- 奨学生の条件
 - ・奨学金申請時に、大学院レベルの無条件の入学許可書または、大学院レベルの研究に関する招請状を提出しなければならない。

7. グローバル補助金の職業研修チーム

- 職業研修チームは必ずしも交換である必要はない。
GSEのようにホストが来訪GSEチームの受け入れ費用をもつとは限らない。

派遣側が申請時に予算を組んで申請書に明記すれば、ホスト地区での滞在中の費用（宿泊費や食費を含む）をグローバル補助金の中から支払うことも可能である。

- チームは、重点分野の範囲内で、自らの職業能力を高めるか、他の人に専門的研修を行うかのいずれかでなければならない。
- 重点分野に関することについて学ぶか教えるかによって能力を高めることを実証しなければならない。
- 職業研修チームは明確な目的を持ち、意図、持続性のある成果、準備計画を提案するものでなければならない。
- 一つの補助金で一つまたは二つ以上のチームを支援するために使うことができる。
- 派遣側（International Sponsor）がチームメンバーを選ぶために委員会を設置する。

クラブ提唱の場合はクラブ会長が、地区提唱の場合は地区ガバナーが委員会を率いることになる。

- チームの構成と基準
 - 経験豊富なチームリーダー（ロータリアンが望まれるが、ロータリアンでなくても可）と、ロータリアン以外の2人以上のチームメンバー。総数についての上限はない。
 - 年齢制限はない。
 - 申請者は、重点分野の一つに経験や専門知識のあることを示し、できれば重点分野に関連する専門職務か事業に雇用されていることが望まれる。

8. パッケージ・グラントの申請

奉 仕 事 業

M E M O

- 財団と戦略パートナーと合同で、重点分野に該当するプロジェクトを実施する。
- 資金は100% WFと戦略パートナーからもたらされるが、DDFを使うこともできる。DDFとWFを同時に使うことはない。



戦略パートナー

パッケージ・グラントにおける戦略パートナーについて

- ロータリー財団は、6種類の重点分野のいずれかを専門とする団体と、1年以上、協力関係を結ぶ。
- 戦略パートナーは財団管理委員会で承認する。現在の戦略パートナーは、アガ・カーン大学、マーシーシッパス、ユネスコ水教育研究所である。

9. 補助金構成における六つの重点分野

重点分野については、現況を踏まえ、それぞれ具体的な例が増えている。詳しくは、ロータリー財団ハンドブック（改訂第3版）の20～29ページを参照のこと。

10. 参加資格

補助金プログラムに参加するためには、地区はロータリー財団の地区の覚書（MOU）とロータリー財団の関連指針を承認し従い、専用の振込口座を設け、会計制度を決めて、オンラインを通じて、参加資格を得なければならない。

クラブの参加資格条件は、同じくクラブの覚書を承認し、地区の開催する補助金管理セミナーに出席することによって得られる。

地区が参加資格を満たすために

- 地区が補助金を受け取るための銀行口座の受取人情報を財団に提供する。
- 財団の補助金管理に関して毎年行う財務評価の方法に付いての情報を財団に提供する。
- 覚書に記載されている参加資格についての承諾書を財団に提出する。

クラブが参加資格を満たすために

- 地区が参加資格を満たしていること。
- 地区補助金管理セミナーに出席し、覚書を読み、理解し、これに同意した上で、地区が定めているその他の要件に従うこと。

11. 未来の夢計画の補助金制度から独立しているプログラム

●ポリオプラス

- 国際ロータリーの創始75周年を祝って、保健、飢餓追放、人間性尊重プログラムがスタートし、その中から最初のポリオ予防接種プロジェクトが実施された。それが発展し、1985年には、ポリオのワクチンを世界中の児童に予防接種しようと

いうポリオプラス・プログラムが始まった。

- 1990年に米州地域でポリオ根絶宣言、2000年に西太平洋地域でポリオ根絶宣言、2002年ヨーロッパ地域でポリオ根絶宣言が出され、着実に成果を上げてきた。
- これまでに世界で20億人以上の子供たちに経口ポリオ・ワクチンを投与した。ロータリーがポリオプラス・プログラムを開始して以来、ポリオの症例数は99%以上も減少した。
- 2007年11月の1億ドル、2009年1月の2億5,500万ドルのゲイツ財団よりの寄付決定を受け、ロータリーの2億ドルのチャレンジは2012年6月30日を前に達成できた。
- 2013年4月にアラブ首長国連邦のアブダビで開かれたワクチン・サミットでは、野生ウイルスとワクチン由来のポリオ・ウイルスを根絶する計画を立て、そのために2018年までに55億ドル必要と算出した。40億ドルは調達の目途が立っている。残り15億ドル調達の一助として、2013年から2018年までの5年間、ロータリーとビル・アンド・メリンダ・ゲイツ財団がパートナーを組み、年間3,500万ドルまで、ロータリアンの寄付に対して2倍の額を上乗せすることになった。5億ドル以上の価値がある。
- インドが2014年1月にポリオフリーとなり、ポリオ常在国は、残り3カ国（ナイジェリア、パキスタン、アフガニスタン）となった。ウイルスに国境はなく、ウイルスが近隣の国々に流入しているため、ゲイツ財団と提携し、なお一層の寄付を要請しているところである。

●ポリオプラス・パートナー

ポリオ発生地域で活動するロータリアンを援助し、①全国予防接種日のための地域社会動員、②ポリオウイルス免疫所への援助、③ポリオ担当役員・疾病専門医への援助活動の三つのニーズに目標をおき、ポリオの撲滅に必要な用具や補給品の費用やその他活動費用等を支援することを目的としている。

●ロータリー平和センター

- ロータリー平和センター・プログラムは世界理解と平和という財団の使命を達成するための教育プログラムである。
- 平和、親善、紛争解決に貢献できる人材の育成を目標としている。
- ロータリー平和フェロー（従来の奨学生より年齢層が高いため、フェローと呼ぶ）は、2年間まで、ロータリー平和センター（世界6カ所7大学にある）で修士課程において学ぶ。（3カ月、12カ月、16カ月コースもある。）
- ロータリー平和フェローは、将来、政府、民間企業、教育、報道機関、その他の職業分野において指導者となる可能性をもつ人々である。

12. 寄 付

寄付の名称は細かく変更されている。

1. 年次寄付

年次寄付は、寄付の基盤であり、この寄付は使い道を指定することなく、ロータリー財団に寄付するもので、3年後に全額使われる。この年次寄付を入れておく、いわば、財布の名称が年次プログラム基金から年次基金に変わった。

年次寄付は、その寄付額の50%が、3年後に、国際財団活動資金（WF）として、財団の管理下に置かれ、残り50%が地区財団活動資金（DDF）として、地区の裁量の下に使用されていく。

2015年7月1日より、年次寄付の5%は、管理運営費、寄付推進費、運営準備金に充てられることになった。（2014年1月管理委員会決定）

2. 恒久基金寄付

恒久基金の名称が英語ではPermanent FundからEndowment Fundに変わり、最低限度のプログラム活動を継続し、将来の新プログラムまたはプログラムの拡張を容易にするために、寄付金は原則として使用せず基金として積み立てておくものである。

収益のみが3年後に使用される。

恒久基金に少なくとも米貨1,000ドルを寄付した人はベネファクターの認証を受ける。

3. 使途指定寄付

あらかじめ使い道を決めて寄付するものである。

ポリオプラスとグローバル補助金の提唱者側寄付がその代表的例である。

2015年7月1日より、グローバル補助金の提唱者側の寄付の5%は、管理運営費、寄付推進費、運営準備金に充てられることになった。（2014年1月管理委員会決定）

●大口寄付者 Major Donors

- 年次寄付、恒久基金寄付、使途指定寄付の合計で10,000ドル以上寄付した人を大口寄付者という。

●冠名指定寄付

未来の夢計画に沿って、英語がNamed Scholarship から Term Gift に変更された。

個人または団体は、1回限りのグローバル補助金プロジェクト費用全額を寄付することによって、自己の氏名を冠したグローバル補助金プロジェクトを設立できる。

冠名指定寄付は使途指定寄付である。

●恒久基金グローバル補助金の冠名の機会

未来の夢計画に沿って、英語がEndowed Scholarship から Named Endowment

に変更された。

米貨2万5,000ドル以上の寄付によって基金の設立ができ、その元金の収益金がグローバル補助金に使われる。

1回限りの冠名指定寄付と異なる点は、原則として寄付の元金に手をつけないことである。

冠名指定寄付は、使途指定寄付で、冠名グローバル補助金は恒久基金寄付のため、両方の寄付額とも地区のシェア・システムの対象にならない。

●冠名基金

25,000ドル以上を恒久基金に寄付をすると、寄付者の名前をつけて、別個のユニットで運用する。

収益をシェアと選択すれば、冠名基金の収益の50%がDDFとなる。

管理委員会の裁量と選択すれば、収益は全額、国際財団活動資金として使われる。

●ロータリー平和冠名フェロースhip基金

500,000ドル以上寄付すると、修士課程を学ぶロータリー平和フェロースhip基金を設立することができる。

●慈善年金

この年金は、国際ロータリーのロータリー財団と寄付者の契約である。

ロータリー財団は寄付を受け、年金受給者に生涯、一定利率の年金を支払うと約束する。

年金は投資とみなすべきものでなく、人道的目的の寄付をする一方で年金を受け取るというものである。

年齢50歳以上の人（ロータリアンとは限らない）が、10,000ドル以上を寄付し、一定額の年金を受け取る。

利率は年齢によって異なる。

寄付の意思を表明した場合、契約書を交わし、その年度から年金を受け取ることができる。

●遺贈友の会

ロータリアン個人または夫妻で、米貨10,000ドル以上の遺産の受取人としてロータリー財団を指名し、そのことをロータリー財団に告げることによって遺贈友の会メンバーとなる。

●財団の友

年次基金へ毎年100ドル以上寄付する人のことである。

●ポール・ハリス・ソサエティ

毎年1,000ドルの年次寄付、使途指定寄付をする人の認証である。

【認証ポイント】

個人で、年次寄付や用途指定寄付をした場合、直ちに認証ポイントがつく。

例えば5,000ドル寄付すれば5,000ポイントである。

認証ポイントを他の人に移譲することができる。

もらった認証ポイントと、現金寄付と合わせてその数値が1,000に達するとポール・ハリス・フェローになることができる。

個人のポイントの他に、クラブのポイントというものもある。

グローバル補助金を申請して、現金寄付をすると申請クラブまたは地区にポイントがつく。

そのポイントを会員に譲渡することができる。

【シェア・システム】

年次寄付と恒久基金収益が、3年後に国際財団活動資金（WF）と地区財団活動資金（DDF）にそれぞれ50%ずつ配分される。

WFは、ロータリー財団が管理し、ロータリー財団が最適と判断するものに使う。

DDFは、地区の裁量で、DDFの50%以内を地区補助金に、残りの額をグローバル補助金に活用する。

13. ロータリー・カード

2002-03年度より、日本でもロータリー・カードが発行された。

2007年9月末に、5,000人を上回った。

2007年10月からカード購入額の0.3%がロイヤリティとして日本事務局に振り込まれている。

また、ゴールド・カードについては、年一人3,000円が振り込まれている。

カードで買い物をすると、ポイントがつく。

そのポイントを貯めて1,000ポイント（5,000円分）になると、そのポイントをロータリー財団に寄付できる。

現金なので、買い物をした個人の年次寄付として実績に加算される。

2013年からはビジネスカードも利用できる。

14. 一般財団法人ロータリー日本財団

新公益法人関連3法（法人法、認定法、整備法）が、2008年12月1日に施行されるのを受け、これまでの特別非営利活動法人ロータリー日本財団は2008年9月10日をもって解散し、2009年6月に、一般財団法人ロータリー日本財団を登記した。2010年12月24日に公益財団法人ロータリー日本財団が登記され、2011年7月1日からは、原則、あらゆる寄付について、税制上の優遇措置を講じている。